

# 安曇野市環境基本計画

～みんなで安曇野の環境を考えよう～

平成 23 年度年次報告書

平成 24 年 4 月

安 曇 野 市

## 目 次

1. 平成 23 年度の取り組みの概要	1
2. 平成 23 年度の取り組み結果	3
2-1. 環境基本計画推進会議	3
《1》 会議の開催状況	3
《2》 「市全体のテーマ」について	4
2-2. 安曇野環境市民ネットワーク	7
《1》 概要と事業内容	7
《2》 平成 23 年度の経過	7
2-3. 環境基本計画庁内調整会議	8
2-4. 環境審議会	9
2-5. あづみ野環境フェア 2011	10
2-6. 安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012	12
3. 行動計画実施結果	13
3-1. 行動計画について	13
3-2. 重点プロジェクトの一覧	13
3-3. 各重点プロジェクトの結果	15
《1》 CO <sub>2</sub> 削減目標を設定する	16
《2》 生物多様性を維持する	17
《3》 森づくりを推進する	18
《4》 緑化による環境負荷の低減	19
《5》 歩いて楽しいまちづくり	20
《6》 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る	21
《7》 地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる	22
《8》 豊かな地下水を保全する	23
《9》 ごみを減らそう	24
《10》 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり	25
《11》 環境マネジメントシステムの導入	26
4. 次年度へ向けて	27
4-1. 市全体のテーマの進行	27
4-2. 重点プロジェクトの推進	27
4-3. その他、推進会議委員からの意見等	29
<b>【参考資料】</b>	
1 環境基本計画の推進体制と進行管理	30
2 環境基本計画推進会議名簿	33
3 写真アルバム	34
4 イベント参加団体一覧	38
5 重点プロジェクトの取り組み状況	40

## はじめに

平成 20 年度からスタートした「安曇野市環境基本計画」の取り組みは、4 年目が終わりました。この年次報告書は、環境基本計画に関するこの 1 年の取り組みを振り返り、次の年度はどのようなことに取り組むべきかを明らかにするために作るもので、環境基本計画推進会議が中心となってとりまとめました。

平成 23 年は、3 月 11 日に発生した東日本大震災をきっかけとして、社会や経済のありようが大きく変化し、私たちの意識もまた転換を迫られた年でした。このように変遷しつつある時代背景の中、この地域の環境や社会を守り、より良くしていくために、私たちはこれまで以上に危機感を持って積極的に取り組むことが求められています。

環境の分野では一歩でも前へ進むようと、環境基本計画を軸とした地道な取り組みを行ってきました。

本年度は、平成 21 年度に策定した「環境行動計画」に基づく重点プロジェクトの具体的な取り組みが 2 年目に入り、少しずつ形になりつつあります。環境基本計画推進会議では、進捗状況を確認するとともに、現時点での評価を行いました。その他、「安曇野環境市民ネットワーク」は基本的な組織固めを、「あづみ野環境フェア 2011」ではより多くの人に取り組んでもらうためのきっかけづくりなどを進めました。

環境に関する取り組みは、息の長い取り組みが必要です。本年度の取り組みの結果をもとに、次年度さらに大きな一歩を踏み出せるように活用いただければ幸いです。

安曇野市環境基本計画推進会議

会長 千國 温

## 1. 平成 23 年度の取り組みの概要

安曇野市環境基本計画がスタートして 4 年目となる平成 23 年度は、平成 21 年度に策定した具体的な行動の指針である「環境行動計画」に基づき、実質的な取り組みを進めてきました。

また「安曇野環境市民ネットワーク」の会合も定期的に行われ、情報交換や交流といったネットワークとしての基礎固めを行ってきました。公募による実行委員が中心となり、ネットワークの協力で開催されたのが、4 回目となる「あづみ野環境フェア 2011」です。今年も多くの方で賑わいました。

下の表に、平成 23 年度における取り組みの概要を示します。

平成 23 年度の取り組みの概要

区 分	名 称	内 容
推進体制	環境基本計画 推進会議	・計 6 回の会議を開催した。 ・年次計画の策定、進捗状況の把握、年次報告書のとりまとめを行った。 ・「市全体のテーマ」について検討した。
	安曇野環境市民 ネットワーク	・「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012」を開催した。 ・安曇野環境フェア 2011 の開催協力を行った。
	環境基本計画 庁内調整会議	・環境行動計画、地球温暖化防止実行計画の取り組みについて確認した。 ・地球温暖化対策実行計画策定について確認した。
	環境審議会	・環境基本計画、地球温暖化対策実行計画策定について確認した。
イベント等	あづみ野環境 フェア 2011	・平成 23 年 10 月 8 日、9 日の 2 日間にわたり開催した。 ・過去最多の 74 団体・個人等による出展があり、2 日間で約 1,200 名の方が来場した。

また、環境基本計画第 5 章「計画の実施に向けた第一歩」に記載した項目の平成 23 年度末時点における進捗状況を、次ページの表に示します。

環境基本計画第5章「計画の実施に向けた第一歩」の進捗状況

区 分	項 目	目標年次	平成 23 年度末の進捗状況
1. 環境基本計画の推進と組織横断的な調整及び事業を行う専任部署の設置	専任部署の設置	平成 20 年度	設置済（平成 20 年度）
2. 推進体制の整備	環境基本計画推進会議の設置	平成 20 年度末	設置済（平成 20 年度）
	安曇野環境市民ネットワークの設置	平成 20 年度末	設置済（平成 21 年度）
	環境行動計画の策定	平成 21 年度末	策定済（平成 21 年度）
	環境マネジメントシステム（EMS）の検討	平成 21 年度末	新庁舎での導入を決定
3. 環境に関する情報の提供	環境フェアの開催	毎年 1 回開催	本年度は平成 23 年 10 月 8 日、9 日に開催
	あづみ野環境塾の開催	毎年 1 回以上開催	本年度は「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム」として平成 24 年 3 月 3 日に開催
	環境カレンダーの制作	毎年制作	環境カレンダーとしては未制作。掲載対象の一部項目は、別の資料に掲載（例：平成 23 年度の「ごみの出し方」に、段ボール箱を用いた生ごみ堆肥化の方法を掲載）。環境カレンダーの取り扱いについては、平成 24 年度の環境基本計画中間見直しにて検討予定
	ウェブページ上での情報公開	随時公開	公開中 あづみ野エコプラン.net

あづみ野エコプラン.net : <http://www.azumino-ecoplan.net/>

次項以降において、それぞれの取り組み状況を説明します。

## 2. 平成 23 年度の取り組み結果

### 2-1. 環境基本計画推進会議

#### 〈1〉 会議の開催状況

環境基本計画の推進の上で重要な位置を占めている「環境基本計画推進会議」は、市民・事業者・行政の取り組みの施策・事業における提案、計画推進のための啓発活動や支援、進捗状況の点検・評価と年次報告の作成を主な目的としています。委員は、事業団体の推薦を受けた者、環境保全活動団体の推薦を受けた者、公募により選考された市民、市長が必要と認めた者（環境基本計画策定委員経験者）からなる 15 名で構成されています。

平成 23 年度は「環境行動計画」で策定した重点プロジェクトを推進するため、年次計画の策定から実施状況の把握、平成 23 年度の評価等について、6 回の推進会議と 4 回の幹事会を開催しました。また、このほかにも重点プロジェクトの詳細を検討するワーキンググループ（WG）ごとの会合も開かれています。

WGの編成を下の表に、推進会議等の経過を次のページに示します。

ワーキンググループ（WG）の編成

WG名	対象の重点プロジェクト
自然	生物多様性を維持する 森づくりを推進する
まちづくり・ 景観	緑化による環境負荷の低減 歩いて楽しいまちづくり
資源・ エネルギー	CO <sub>2</sub> 削減目標を設定する 豊かな地下水を保全する ごみを減らそう
農業	耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る 地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる
環境学習	環境について教え学び、取り組む仕組みづくり
環境マネジメント システム	環境マネジメントシステムの導入

安曇野市環境基本計画推進会議の経過

日 時	会議名称	内 容
平成 23 年 4 月 26 日	第 7 回 推進会議	本年度の進め方および日程について検討した。 本年度の実施計画について検討した（WGごと）。
5 月 17 日	幹事会	本年度実施計画書について検討した。
5 月 31 日	第 8 回 推進会議	本年度実施計画書について検討した。 「市全体のテーマ」の進め方について検討した。
6 月 28 日	幹事会	本年度実施計画書のWG検討結果について確認した。 来年度の中間見直しの方法について検討した。
7 月 26 日	第 9 回 推進会議	実施計画について、各WG座長より報告し、全体での検討を行った。 上記の結果を受け、再度各WGで検討した。 来年度の中間見直しの方法について検討した。
11 月 18 日	幹事会	来年度の中間見直しの方法について検討した。
11 月 29 日	第 10 回 推進会議	重点プロジェクトの進捗状況を確認した。 来年度の中間見直しの方法について検討した。
平成 24 年 1 月 24 日	第 11 回 推進会議	重点プロジェクトの進捗状況を確認した。 本年度の年次報告書（原案）について検討した。
2 月 21 日	第 12 回 推進会議	重点プロジェクトの進捗状況を確認した。 本年度の年次報告書（案）について検討した。
3 月 27 日	幹事会	本年度の年次報告書について確認した。

回次は昨年度からの通し番号です。

なお、重点プロジェクトの実施状況については、「3-3. 各重点プロジェクトの結果」にまとめました。

## 《2》 「市全体のテーマ」について

平成 22 年度の推進会議において決定した「市全体のテーマ」を推進しました。

「市全体のテーマ」とは、安曇野市の環境をより良くするために、市民・事業者・行政の各主体が積極的に取り組む共通テーマであり、共通の目標に向かって各主体が取り組むことにより、目に見える形で成果が上がることを期待しています。「市全体のテーマ」を現在進行中の重点プロジェクトとリンクさせるとともに、環境フェアや各種生涯学習講座との連携をはかって目に触れる機会を増やすことにより、市民など様々な人々の関心を高め、取り組みへの機運が高まることを目的としています。

「市全体のテーマ」は、以下の 2 つです。

【年次テーマ】安曇野の水を知り、守り、育む

【長期テーマ】地球温暖化防止に取り組む

各テーマの概要は、次のページのとおりです。

## 年次テーマ 『安曇野の水を知り、守り、育む』

### 【選定の理由】

- ・ 水は私たちの生命の基盤であるとともに、安曇野の風土や産業を成り立たせている根源的な存在です。安曇野と言えば水をイメージするほど、安曇野と水は密接な関係があります。
- ・ 水に恵まれた安曇野に暮らす私たちは、ふだんはあまり水を意識していませんが、世界を見渡せば日々必要な水にも事欠く人々の方が圧倒的多数です。水をめぐって争いが起きるほど、安全な水の確保は重大な問題です。
- ・ 日々使っている水を見つめ直し、豊かな水を後世へ守り伝えていくために、みんなで取り組みます。

### 【本年度の取り組みの結果】(一例です)

#### 「地下水保全シンポジウム」の開催

- ・ 開催日：平成 23 年 8 月 6 日(土)
- ・ 会場：堀金総合体育館サブアリーナ
- ・ 参加者数：約 250 名
- ・ 地下水は地域の共有財産という立場にたち、豊かで潤いのある安曇野の暮らしの礎としての地下水を持続的に活用し、より良い状態で次世代に引継ぐこと、ひいては安曇野の未来が地下水で拓かれ、その先に、地域が誇れる水文化が紡がれることを願い企画されました。
- ・ 基調講演「日本の水文化と地下水」  
講師：高橋 裕氏(社団法人自然環境共生技術協会名誉会長、東京大学名誉教授)
- ・ パネルディスカッション  
「地下水で拓く安曇野の未来」  
コーディネーター：藤縄 克之氏(信州大学教授、前日本地下水学会 会長)  
パネリスト：高橋 裕氏(自然環境共生技術協会名誉会長)、合瀬 宏毅氏(NHK 解説委員)、宮崎 淳氏(創価大学法学部教授)、石川 俊之氏(国土交通省前千曲川河川事務所副所長)、小嶋 一誠氏(熊本県前環境生活部水環境課長)、吉原 祥子氏(東京財団研究員)
- ・ 利き水コンテスト

#### みんなで学ぶ「安曇野の水」巡り

- ・ シンポジウム開催日の午前中、関連イベントとして現地見学を実施しました。
- ・ 参加者：35 名
- ・ 見学コース：堀金総合体育館 安曇野広域排水事業所 わさび田湧水群 万水川散策 ビレッジ安曇野 三角島 Vif 穂高(昼食) 堀金総合体育館

親水公園にて

安曇野の水文化を次世代に紡ぐ。

参加費 無料

## 地下水で拓く安曇野の未来 シンポジウム

開催日時 8月6日(土) 12:00 - 17:00

会場 堀金総合体育館サブアリーナ  
定員 300名  
主催 安曇野市、安曇野市地下水保全共済研究会  
共催 安曇野市水資源対策協議会

水は、わたしたちの暮らしに欠かせない大切なものです。わたしたちの住む松本盆地の地下には、数メートルで掘れば地下水があり、わたしたちは、毎日の暮らしに地下水を使っています。しかし、近年、湧き水の量が減ってきています。地下水は、わたしたちの共通の財産です。わたしたちがこの財産を守り、育み、活かすことに取り組んでいきたいと思います。この取組みが、安曇野の未来を拓き、安曇野が誇れる水文化を紡ぎます。

シンポジウム概要

12:00 開場	13:00 基調講演	14:00 基調講演	15:00 基調講演
13:00 開会式	14:00 基調講演	15:00 基調講演	16:00 基調講演
14:00 基調講演	15:00 基調講演	16:00 基調講演	17:00 閉会式

コーディネーター：藤縄 克之氏  
パネリスト：高橋 裕氏、合瀬 宏毅氏、宮崎 淳氏、石川 俊之氏、小嶋 一誠氏、吉原 祥子氏



## 長期テーマ 『地球温暖化防止にみんなで取り組む』

### 【選定の理由】

- ・ 地球温暖化による気温の上昇はすでに実感として感じられるようになってきており、地球温暖化防止は地球全体で取り組むべき課題と言えます。
- ・ 地球温暖化は地球規模の環境問題ですが、防止のためには日々の暮らしや営みの中で地道に取り組む必要があることから、安曇野市環境基本計画の期間を通じた共通のテーマとして、継続的に取り組みます。

### 【関連する重点プロジェクト】

- ・ CO<sub>2</sub>削減目標を設定する
- ・ 森づくりを推進する
- ・ 緑化による環境負荷の低減

### 【本年度の取り組みの結果】(一例です)

#### 安曇野市地球温暖化対策実行計画の策定

- ・ 計画検討委員会を設置し、計画(案)について検討しました。
  - 第1回委員会(平成23年8月9日)
  - 第2回委員会(9月29日)
  - 第3回委員会(11月8日)
  - 第4回委員会(12月15日)
  - 第5回委員会(平成24年2月17日)
  - 第6回委員会(3月28日)
- ・ 安曇野市全体の温室効果ガス排出削減量の目標を以下のとおりとしました。

2020年度(平成32年度)までに、  
2008年度(平成20年度)比  
25%削減する。



検討委員会の様子(平成23年11月8日)

#### あづみ野環境フェア2011での関係団体の出展

- ・ 安曇野環境市民ネットワーク参加団体を中心に複数の団体が出展し、地球温暖化対策に関する普及啓発を行いました。



ブース出展



ぶちエコセミナー

#### 公用車への電気自動車の導入

- ・ 穂高支所において、電気自動車「リーフ」を1台導入しました。併せて充電設備も整備しました。

## 2-2. 安曇野環境市民ネットワーク

### 《1》 概要と事業内容

「安曇野環境市民ネットワーク」は、市内全域または各地域において環境保全のための活動を行っている各種団体のとりまとめ、および連絡・調整を行うことを目的として平成 21 年 9 月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて コミュニケーション、 環境学習の企画と実施、 環境基本計画および行動計画の実施、 普及啓発、 の 4 つです。

安曇野環境市民ネットワークの事業内容

区 分	内 容
コミュニケーション	ネットワーク参加団体および個人に関する情報の提供と公開 参加者同士のコミュニケーション 交流会等の企画
環境学習の企画と実施	環境学習プログラムの企画と実施 環境学習におけるリーダー等、地域に貢献できる人材の育成 ネットワークのつながりを活用した環境学習の企画と実施
環境基本計画および行動計画の実施	環境基本計画、環境行動計画の推進への協力 環境保全上の課題への対応
普及啓発	インターネット上での情報公開 活動拠点における情報提供 各種環境イベントの企画と運営、参加と協力

### 《2》 平成 23 年度の経過

平成 23 年度は、総会を 1 回、全体会を 5 回開催したほか、全体会の前後に運営委員会を開催しました。

また平成 24 年 3 月 3 日には、ネットワークがとりまとめた各団体の環境学習プログラムについての紹介を目的とした『あづみ野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012 ～環境学習プログラムの推進に向けて～』を開催しました。

### 安曇野環境市民ネットワークの経過

日 時	会議名称	内 容
平成 23 年 5 月 25 日	平成 23 年度総会	平成 22 年度事業報告および収支決算 平成 23 年度事業計画および収支予算
7 月 20 日	第 1 回全体会	「あづみ野環境フェア 2011」への協力依頼 「地下水シンポジウム」開催日イベントの検討 アレチウリ駆除への協力について
12 月 27 日	第 2 回全体会	「あづみ野環境フェア 2011」開催報告 「安曇野環境市民ネットワーク フォーラム 2012」の 検討 「自然エネルギー松本地域協議会（仮称）」への参加に ついて
平成 24 年 1 月 17 日	第 3 回全体会	「安曇野環境市民ネットワーク フォーラム 2012」の 検討 ネットワーク参加団体・環境学習プログラム紹介冊子の 改訂について
2 月 16 日	第 4 回全体会	「安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012」に ついての検討

これらの会議等の他に、参加団体間の情報交換および情報発信として、メーリングリスト上での情報交換、ウェブページ「あづみ野エコプラン.net」上でのネットワークの紹介などを行いました。

### 2-3. 環境基本計画庁内調整会議

庁内の担当課を明確化した上で、関連する施策の連携を強化し、環境に関する施策・事業を効果的に推進するため、庁内の連絡調整を行うことおよび庁内地球温暖化防止実行計画等の策定・推進・評価等を行うことを目的として設置しました。

平成 23 年度は、環境基本計画の推進を図るとともに、地球温暖化対策実行計画の策定等を行いました。

#### 環境基本計画庁内調整会議の経過

日 付	会議名称	内 容
平成 23 年 4 月 13 日	第 1 回庁内会議	環境基本計画「平成 22 年度年次報告書」について 環境行動計画推進について 庁内地球温暖化防止実行計画について 改正省エネ法の取り組みについて
9 月 28 日	第 2 回庁内会議	環境行動計画取り組み状況について 庁内地球温暖化防止実行計画取り組み状況について
平成 24 年 1 月 31 日	第 1 回作業部会	地球温暖化対策実行計画策定（案）について
2 月 10 日	第 3 回庁内会議	地球温暖化対策実行計画策定（案）について

## 2-4. 環境審議会

安曇野市環境基本条例に基づき設置されるもので、環境基本計画に関することや環境保全に関する基本的事項を調査審議するための、学識経験者中心の諮問機関です。

環境問題に対し、市長の諮問に応じ答申することのほか、環境基本計画の進捗状況を管理する「環境基本計画年次報告」の承認等を行っています。

平成 23 年度は 2 回開催され、環境基本計画の年次報告書および地球温暖化対策実行計画（案）などについて検討しました。

### 環境審議会の経過

日 付	会議名称	内 容
平成 23 年 4 月 28 日	第 1 回 環境審議会	環境基本計画 平成 22 年度 年次報告書について
平成 24 年 2 月 9 日	第 2 回 環境審議会	地球温暖化対策実行計画（案）の検討

## 2-5. あづみ野環境フェア 2011

---

### (1) 開催のねらい

環境基本計画および環境行動計画についての取り組みを市民に広く紹介し、それぞれの立場で行動していただくきっかけとなることを目的として開催するもので、今回は4回目となりました。

今回の開催目的は、以下の3点でした。

市内の環境に関わるさまざまな情報・現状を市民の方に知っていただく

『安曇野環境市民ネットワーク』をはじめ、市内外で環境活動を行っている団体等を紹介し、その環を広げていく

環境基本計画、および環境行動計画を知っていただき、実践してもらおう

### (2) 開催概要

【テーマ】みんなで安曇野の暮らしと環境を考えよう

～知ろう そして 行動しよう～

【主催】安曇野市、あづみ野環境フェア 2011 実行委員会

【日時】平成 23 年 10 月 8 日（土） 10:00～16:00

10 月 9 日（日） 9:00～16:00

【会場】安曇野市堀金総合体育館

【内容】

温暖化トークセッション

～安曇野らしいエコライフって？～

長野県温暖化対策課長 中島恵理氏 / 自然エネルギー信州ネット理事 平島安人氏

展示ブース

・安曇野市、企業、団体、学校、個人等による展示（計 74 団体・個人）

ぶちエコセミナー

・ブース展示会場内における、出展団体等によるミニセミナー（6 団体）

美咲コンサート

・光合成 LIVE in あづみ野環境フェア

映画 特別上映会

・『RYO と彩の安曇野水物語』

・『矢原堰 白井弥三郎物語』

人形劇

・ホーボーズパペットシアター

【同時開催】

・『安曇野屋敷林フォーラム 2011』

（屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト主催）9 日（日）9:30～12:00

・市民大学講座（安曇野市教育委員会主催）9日（日）14:00～15:30

「地球温暖化と科学コミュニケーションの課題」

講師：東京都市大学環境情報学部特任教授 山本良一氏

**【来場者数】**

10月8日（土）約600名

9日（日）約600名

2日間の合計 約1,200名

**(3) 準備等スケジュール**

- 6月 8日（水）・第1回実行委員会
- 7月 5日（火）・第2回実行委員会
- 7月 6日（水）・広報発行、出展団体申込受付開始
- 8月 9日（火）・第3回実行委員会
- 8月10日（金）・出展団体申込締切
- 8月20日（土）・信州環境フェア視察
- 8月25日（木）・参加者連絡会
- 8月26日（金）・ポスター、チラシ原稿入稿
- 9月 5日（月）・広報折込（9/22発行、出展団体一覧）原稿入稿
- 9月13日（木）・第4回実行委員会
- 9月22日（水）・広報発行、出展団体一覧折込
- 9月29日（木）・スタッフ証、出展者証作成作業/係会
- 10月 5日（水）・フェア当日配布プログラム原稿入稿
- 10月 6日（木）・パネル設置位置マーキング
- 10月 7日（金）・会場準備
- 10月 8日（土）・当日準備、本番1日目
- 10月 9日（日）・本番2日目、閉会后撤収
- 10月28日（金）・反省会

**(4) 印刷物等資料の作成**

フェア告知用資料、当日配布資料等の印刷物を作成しました。作成した印刷物は、以下のとおりでした。

- ・告知用ポスター
- ・告知用チラシ
- ・小中学校向け告知用チラシ
- ・広報原稿
- ・当日配布用プログラム
- ・アンケート（来場者向け、出展者向け）
- ・出展者名看板
- ・誘導看板
- ・受付等看板

**(5) 助成について**

（社）長野県環境保全協会中信支部様より、運営資金の一部を助成いただきました。

## 2-6. 安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012

---

### (1) 開催のねらい

安曇野環境市民ネットワークでは、「安曇野市環境行動計画」(平成22年3月策定)の重点プロジェクトの一つである「環境について教え学び、取り組む仕組みづくり」の推進に向け、ネットワーク参加団体が作成した環境学習プログラムの提供や、講師等の専門家の派遣を行っています。この取り組みを広げるため、市内の小中学校で実施されている環境学習の事例や、参加団体が提案するプログラムについて紹介することを目的として開催しました。

### (2) 開催概要

【主催】安曇野市、安曇野環境市民ネットワーク

【開催日】平成24年3月3日(土)13:30~16:00

(展示は2月29日(水)~3月4日(日))

【会場】安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」

【内容】・発表(7団体)

・展示(14団体)

### (3) 準備等スケジュール

12月2日(木)・運営委員会(概略説明)

12月27日(火)・全体会(実施要綱検討)

1月17日(火)・全体会(フォーラム内容、冊子構成検討)

2月8日(水)・冊子原稿〆切

2月16日(木)・全体会(フォーラム準備、当日役割分担検討)

2月27日(月)・冊子作成作業

2月28日(火)・会場設営、展示準備作業

2月29日(水)・展示開始 ~3月4日(日)まで

3月3日(土)・発表開催 ・夕方、反省会

### (4) 印刷物等資料の作成

フェア告知用資料、当日配布資料等の印刷物を作成しました。作成した印刷物は、以下のとおりでした。

- ・ 告知用チラシ
- ・ 当日配布用プログラム
- ・ 出展者名看板
- ・ 誘導看板

### 3. 行動計画実施結果

#### 3-1. 行動計画について

「安曇野市環境行動計画」(以下、「行動計画」という)は、安曇野市のよりよい環境づくりを目的として平成 20 年 3 月に策定した「安曇野市環境基本計画」(以下、基本計画という)の実現に向け、基本計画に盛り込まれた取り組みのうち、特に重点的・優先的に行う必要のある項目をまとめたものです。

基本計画は、平成 20 年度を始期として平成 29 年度を目標年度としています。行動計画は、このうちの前半にあたる平成 25 年度までに実現する項目を取り上げています。

そして、計画に従って取り組みを進めることを前提に、主体ごと、時期ごとに行うべき項目を可能な限り具体的に取り上げています。

#### 3-2. 重点プロジェクトの一覧

行動計画では、特に重点的・優先的に行う必要のある項目を「重点プロジェクト」としてまとめました。重点プロジェクトは、以下の 11 項目です(実施計画の立案段階で重点プロジェクトのうち「市民参加による公園再生の仕組みづくり」と「水景観と歴史・文化遺産を活かしたまちづくり」が合体して「歩いて楽しいまちづくり」となったため、行動計画に記載された重点プロジェクトの数から 1 つ減っています)。

重点プロジェクトと平成 23 年度の実施内容一覧

重点プロジェクト名	平成 23 年度の実施内容	
	主体	内容
CO <sub>2</sub> 削減目標を設定する	行政	・ 安曇野市全体の CO <sub>2</sub> の削減目標を設定した。 ・ 「安曇野市地球温暖化対策実行計画」を策定した。
生物多様性を維持する	行政	・ 『生物多様性技術委員会』を計 2 回開催した。 ・ 『安曇野市版レッドデータブック作成委員会』を設置し、全体会を 3 回開催した。 ・ 北アルプスおよび東山の現地補足調査を実施した。 ・ 生物情報についてとりまとめた。
	ボランティア	・ アレチウリの駆除を行った。
森づくりを推進する	行政	・ 森林に関する現況把握資料を整理した。 ・ 『安曇野市里山再生計画検討委員会』を設置し、1 回開催した。
	行政・事業者	・ 森林の里親事業として間伐作業等を実施した。
緑化による環境負荷の低減	行政	・ 公共施設における緑のカーテンを実施した。
	行政	・ 学校校庭芝生化試行の成果のとりまとめと検証を行った。

(次のページにつづく)

重点プロジェクトと平成 23 年度の実施内容一覧（つづき）

重点プロジェクト名	平成 23 年度の実施内容	
	主体	内容
歩いて楽しいまちづくり	市民・事業者・行政	・「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト研究会」を開催し、実施体制を整備した。
耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る	行政・JA・農業委員会・営農支援センター	・新規就農者支援として、新たに 1 名について新規就農者育成支援を実施した。昨年度からの対象者と合わせて 4 名への支援を実施中。 ・耕作放棄地対策として、耕作放棄地の実態把握を行った。農地の貸借に係る問題点が明らかになった。
地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる	行政・JA・農業委員会等	・地元産農産物の消費拡大も目的である農業体験講座等を市内各所で開催した。 ・農産物直売所を中心に、地元農産物仕入高（売上高）調査を試行した。
	行政	・学校給食における地域食材の使用率は、市内産 30.1%、県内産 49.3%であった。
豊かな地下水を保全する	行政（市民・事業者）	・『地下水保全対策研究委員会』を本年度は 5 回開催した。 ・作業部会を設置し、会合を 2 回開催した。 ・「地下水シンポジウム」を 8/6 に開催した。
ごみを減らそう	市民	・事業系生ごみ処理対策を検討する組織は検討に至らなかった。 ・段ボール堆肥講習会を実施した。
環境について教え学び、取り組む仕組みづくり	環境市民ネットワーク	・安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012 を開催し、環境学習プログラムの周知をはかった。
	行政	・環境に関するテーマの公民館講座を実施した。 ・環境情報のライブラリー化として、図書館等に環境関連図書のコーナーを設置した。
	学校・教育委員会	・小中学校における環境教育を実施した。 ・環境教育に関する小中学校へのアンケート調査を実施した。
環境マネジメントシステムの導入	行政	・EMS 研究プロジェクトチームを設置し、検討を行った。

### 3-3. 各重点プロジェクトの結果

以下、重点プロジェクトごとに平成23年度の取り組みの結果を示します。

#### 【重点プロジェクト表の見方】

環境行動計画で  
立てた基本事項  
です。

本年度当初に立  
てた計画とその  
結果です。  
結果はランク  
として記号で示  
します。

**ランク**  
達成度別に A～E の  
5段階で評価しまし  
た。記号は達成度の  
めやすを示します。  
A：目標達成  
B：75%程度達成  
C：50%程度達成  
D：25%程度達成  
E：ほぼ未着手  
-：判定不能  
割合の数字はおおよ  
そのめやすです。

本年度の総括と  
次年度に向けた  
留意事項等の整  
理結果です。  
実績評価はラン  
クとして記号  
で示します。

#### 《1》 CO<sub>2</sub>削減目標を設定する

##### ■このプロジェクトの基本事項

目的	・省エネルギーの促進と新エネルギーの導入を促進し、CO <sub>2</sub> 排出量を削減する。	
方向性	・CO <sub>2</sub> 排出量の実態把握 ・CO <sub>2</sub> 削減目標の設定 ・削減目標を実現するための具体的な行動計画の策定と実施	
目 標	時 期	内 容
	平成23年度末	・CO <sub>2</sub> 削減目標を設定する(安曇野市全体として、何年度までに何%の削減を目指すかを決定し、行政・事業者・市民それぞれがどの位の削減を受け持つのかを決定)。 ・安曇野市全体の地球温暖化対策実行計画(仮称)を策定する。

##### ■平成23年度の計画および結果

主 体	実施計画		結 果									
	内 容	時 期										
行政 (生活環境課) ・委員会の主催 ・アンケートの 実施  市民・事業者 ・委員会への参 加 ・アンケートへ の協力	●地球温暖化対策実行計画策定に向けた準備	4月～6月	A：検討委員会の設置に向けて、委員の選定、要綱の策定を実施  A：8月9日に実施  A：8月29日から9月15日にかけて実施 <table border="1"> <tr> <td>区 分</td> <td>回収数</td> <td>回収率</td> </tr> <tr> <td>市 民</td> <td>497</td> <td>33.1%</td> </tr> <tr> <td>事業者</td> <td>61</td> <td>30.5%</td> </tr> </table> A：9月29日に実施  A：11月8日に実施  A：12月15日に実施  A：平成24年2月17日に実施 A：3月2日から23日にかけて実施 A：3月28日に実施 A：3月に策定	区 分	回収数	回収率	市 民	497	33.1%	事業者	61	30.5%
	区 分	回収数		回収率								
	市 民	497		33.1%								
	事業者	61		30.5%								
	●地球温暖化対策実行計画検討委員会の設置・開催 第1回 検討委員会 ・委員委嘱 ・基本事項の検討	7月										
	●アンケートの実施 対象：市 民 1,500名 事業者 200事業所	8月										
	●第2回 検討委員会 ・課題と問題点の抽出 ・計画の方向性	9月										
	●第3回 検討委員会 ・重点施策の検討 ・実施体制および評価方法の検討	11月										
	●第4回 検討委員会 ・素案の検討	12月										
	●第5回 検討委員会 ・素案の検討	平成24年2月										
	●パブリックコメントの実施	1月～2月										
	●第6回 検討委員会 ・最終案の決定	3月										
●地球温暖化防止実行計画の策定	3月											

##### ■実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク※：A ・概ね計画通りに実施している。
次年度への展望と課題	・策定した実行計画を広報していくとともに、実効性を持たせていく。 ・市民、事業者の皆さんの取り組みについて把握し、広く紹介していく仕組みづくりに取り組んでいく。

## 《1》 CO<sub>2</sub>削減目標を設定する

### このプロジェクトの基本事項

目的	・ 省エネルギーの促進と新エネルギーの導入を促進し、CO <sub>2</sub> 排出量を削減する。	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO<sub>2</sub>排出量の実態把握</li> <li>・ CO<sub>2</sub>削減目標の設定</li> <li>・ 削減目標を実現するための具体的な行動計画の策定と実施</li> </ul>	
目標	時期	内容
	平成23年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO<sub>2</sub>削減目標を設定する(安曇野市全体として、何年度までに何%の削減を目指すかを決定し、行政・事業者・市民それぞれがどの位の削減を受け持つのかを決定)。</li> <li>・ 安曇野市全体の地球温暖化対策実行計画(仮称)を策定する。</li> </ul>

### 平成23年度の計画および結果

実施計画			結果									
主体	内容	時期										
行政 (生活環境課) ・委員会の主催 ・アンケートの実施  市民・事業者 ・委員会への参加 ・アンケートへの協力	地球温暖化対策実行計画策定に向けた準備	4月~6月	A: 検討委員会の設置に向けて、委員の選定、要綱の策定を実施									
	地球温暖化対策実行計画検討委員会の設置・開催 第1回 検討委員会 ・委員委嘱 ・基本事項の検討	7月		A: 8月9日に実施								
	アンケートの実施 対象: 市民 1,500名 事業者 200事業所	8月	A: 8月29日から9月15日にかけて実施									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>回収数</th> <th>回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>市民</td> <td>497</td> <td>33.1%</td> </tr> <tr> <td>事業者</td> <td>61</td> <td>30.5%</td> </tr> </tbody> </table>	区分	回収数	回収率	市民	497	33.1%	事業者	61	30.5%
	区分	回収数	回収率									
	市民	497	33.1%									
	事業者	61	30.5%									
	第2回 検討委員会 ・課題と問題点の抽出 ・計画の方向性	9月	A: 9月29日に実施									
	第3回 検討委員会 ・重点施策の検討 ・実施体制および評価方法の検討	11月	A: 11月8日に実施									
	第4回 検討委員会 ・素案の検討	12月	A: 12月15日に実施									
第5回 検討委員会 ・素案の検討	平成24年2月	A: 平成24年2月17日に実施										
パブリックコメントの実施	1月~2月	A: 3月2日から23日にかけて実施										
第6回 検討委員会 ・最終案の決定	3月	A: 3月28日に実施										
地球温暖化防止実行計画の策定	3月	A: 3月に策定										

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク : A ・概ね計画通りに実施している。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定した実行計画を広報していくとともに、実効性を持たせていく。</li> <li>・市民、事業者の皆さんの取り組みについて把握し、広く紹介していく仕組みづくりに取り組んでいく。</li> </ul>

## 《2》 生物多様性を維持する

### このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然と共生する社会を構築する。</li> <li>・ 生物情報の整備と生物に配慮した施策を実施する。</li> </ul>	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安曇野市の生物情報を整備し、環境計画や都市整備等の施策に反映することを目指す</li> <li>・ 外来種対策の具体的な方向性を示す</li> </ul>	
目標	時期	内容
	平成 23 年度末	・ 安曇野市の生物情報をとりまとめる。
	平成 24 年度	・ 身近な生き物調査（または類似の調査）を実施し、過年度と比較・評価を行う。
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安曇野市生物情報報告書と安曇野市版レッドデータブックを刊行する。</li> <li>・ 外来種対策の効果を測定する（対策実施前との比較）。</li> </ul>	

### 平成 23 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (生活環境課)	安曇野市版レッドデータブックの作成 「安曇野市版レッドデータブック作成委員会」(仮称)の設置と第1回委員会の開催 ・作成スケジュールの確認	5月上旬	A: 5月12日「安曇野市版レッドデータブック作成委員会」開催(体制・計画・スケジュール)
	現地補足調査(東山地域) (亜高山帯~高山帯)	5・8月 8月中旬	A: 現地補足調査実施(岩州公園結果報告、北アルプス調査計画)
	・生物リストの精査(RDB委員および専門家による)	7月 ~9月	A: 生物リストの精査実施(現状・課題・体制)
	第2回委員会の開催 ・現地補足調査報告 ・既存資料確認 ・選定基準、カテゴリー、掲載内容等検討	9月下旬	A: 9月26日、10月24日「安曇野市版レッドデータブック作成委員会(合同部会)」開催(北アルプス調査結果報告、次年度以降の計画)
	第3回委員会の開催 ・選定基準、カテゴリー、掲載内容等決定 ・記載候補種等検討	平成24年 2月	B: 平成24年2月22日開催の委員会で検討。選定基準、カテゴリー、掲載内容の検討はしたものの決定には至っていない。
	生物情報のとりまとめ	3月	A: 計画通り実施
ボランティア (市民・事業者・行政職員)	外来種対策 ・ボランティアによる外来植物の駆除活動	6月 ~9月	A: ボランティアによるアレチウリ駆除実施(全15回、延べ1700人、約17トン)
	・生物多様性技術委員会による検討	11月	B: 平成24年2月13日開催の委員会で検討。

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク : A ・計画通り実施
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態の把握に伴い計画の遂行に向けた対象・予算等の見直しが必要</li> <li>・専門家の調査から次第に市民を巻き込んだ計画を展開</li> </ul>

### 《3》 森づくりを推進する

#### このプロジェクトの基本事項

目的	・ 森林の持つ公益的機能（CO <sub>2</sub> 排出抑制、水源涵養や山地災害防止など）の発揮や自然とのふれあいを重視した里山の整備・保全を目指す	
方向性	・ 安曇野市の森づくりと里山再生の方向性を打ち出す ・ 里山再生の基本方針と実行計画の策定 ・ 安曇野市森林整備計画（平成23年～平成32年）の推進	
目標	時期	内容
	平成23年度	・ 「里山再生計画検討委員会」を設置し、基本方針を策定する。 （社会の変化に対応した健全な里山を目指す）
	平成24年度末	・ 基本方針に基づき、実行計画を策定する。
	平成25年度	・ 里山保全条例を検討する。

#### 平成23年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 （耕地林務課）	里山再生計画の策定 ・ 現状の確認 ・ 専門委員会（内容・構成）設置の検討 専門委員会開催準備	～ 9月  10月	B：里山再生の現状確認、委員会の体制・計画の枠組みを検討 B：平成24年2月に第1回「里山再生計画検討委員会」開催を計画し、準備実施
	第1回「里山再生計画検討委員会」開催 ・ 課題の抽出・整理	11月	B：平成24年2月10日に第1回「里山再生計画委員会」開催
	第2回「里山再生計画検討委員会」開催 ・ 基本方針の検討・策定 基本方針まとめ	平成24年2月  ～ 3月	B：本年度は1回のみで開催に変更。2回目は平成24年度に開催予定 B：本年度は現状把握と課題整理まで。基本方針等の検討は平成24年度に実施予定
	行政・事業者	森林の里親事業 （企業と行政の契約に基づく森づくり） ・ 新規事業者の推進	通年

#### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク：B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「里山再生計画検討委員会」設置は約3ヶ月遅れで推移。また遅れに伴い、当初計画した内容の一部が平成24年度へ先送りとなった。</li> <li>・ 森の里親事業は新規に1事業者との契約が締結された。</li> </ul>
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林（里山）の現状を正しく把握し、円滑な森林整備や森林資源の有効活用など、実効的な計画とするための基本方針や取り組み内容を検討する必要がある。また、検討の過程を市民に公開し、広く意見を募る必要がある。</li> </ul>

#### 《4》 緑化による環境負荷の低減

##### このプロジェクトの基本事項

目的	・ 身近な緑化を通じて、快適環境の整備だけでなく、地球温暖化防止、CO <sub>2</sub> 削減などの環境負荷低減を行う。	
方向性	・ 地域にあった緑化策（緑のカーテン、生け垣、屋敷林など）の検討と普及 ・ 公共施設への省エネルギーと環境負荷低減効果のある緑化策の採用 ・ 学校校庭の芝生化推進（試行と検証、改善等を経て、市内の小中学校校庭の芝生化を順次進める）	
目標	時期	内容
	平成 23 年度	・ 公共施設における緑化策として、「緑のカーテン」を支所等で実施し、その効果を測定して課題を検証する。
	平成 24 年度末	・ 緑のカーテンのマニュアルを使った、市民向け講習会を公民館講座等で実施する。 ・ 環境負荷低減の効果のある緑化策を市民業者に紹介するガイドブック等を作成し、配布する。 ・ 小中学校校庭の芝生化について、実施する学校を確定させる。

##### 平成 23 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (生活環境課) ・市民・事業者	緑のカーテン ・「緑のカーテン」推進チームによる本年度の実施計画立案	4月～5月	A：市職員有志で実施
	公共施設等における緑のカーテン実施	6月～10月	A：14施設17か所で実施 (昨年8施設11か所)
	緑のカーテンの効果測定 ・カーテン実施による節電	8月	A：葉が密に茂った場合で日向と日陰の温度差2（但し葉を密集させるのが難しい）震災後の節電意識向上により、ほとんどの施設で節電がはかられた。よって緑のカーテンとしての効果は不明
	緑のカーテン実施結果のとりまとめと改善策検討	10月～平成24年2月	A：まとめ方や情報提供の方法を検討。改善策として苗代削減の為、差し芽による苗づくり実施（オーシャンブルー）
	緑のカーテンのマニュアル作成	平成24年2月	A：今後、簡単なマニュアルを適時、ワンポイント情報として広報等に掲載予定
行政 (教育委員会)	学校校庭の芝生化 ・学校校庭芝生化試行の成果のとりまとめと検証（管理面、利用面その他）	4月～平成24年3月	B：穂高西小等の維持管理状況および、利用側の意見をとりまとめ検証を行ったが、今後の方針についての結論には至らず。聞き取り結果を資料編に掲載

##### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク：A ・ 緑のカーテン実施はできたが、学校校庭の芝生化は、関係者との調整が必要。
次年度への展望と課題	・ 緑のカーテンは、震災後の社会変化に伴う省エネ志向、CO <sub>2</sub> 削減への関心が集まり、一般市民が取り組む機運が高まったことを受けて、苗の植え方や水やりといった生育に必要な情報を適時に流すことを行う。 ・ 学校校庭の芝生化は維持管理(費用面含む)および利用側の評価等を取りまとめた資料（三郷小、保育園、穂高西小等のデータから）を作成し今後の推進について検討する。

## 《5》 歩いて楽しいまちづくり

### このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の住民が水景観や歴史文化遺産等の魅力を再発見し、その魅力をさらに高めることにより地域の活性化を図る（観光が主目的としてのスタートではなく、地域の活性化を図り、最終的に観光資源へ発展するように）。</li> <li>活用されていない公園を、地域住民がふれあい、地域の活力を高める場として再生する。</li> </ul>	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車を使わず歩いて回れるまちづくりの推進</li> <li>水景観や歴史・文化遺産などの保全と活用</li> <li>上記の地域資源を結びつける遊歩道、自転車道のネットワーク化</li> <li>地域住民が参加する公園再生の仕組みづくり（公園の再生計画、施工、管理など可能な範囲で地域住民が参加し、地域住民のニーズが反映された公園再生を行政とともに協働で進める）</li> </ul>	
目標	時期	内容
	平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト準備会」を立ち上げる。</li> <li>最初の整備モデル地区を豊科ビレッジ・万水川周辺とし、整備計画素案作りを行う。</li> <li>素案は、他団体、他の部署（都市建設部、文化課、社会教育課ほか）に参加してもらうための原案とする。</li> </ul>
	平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーキングイベントを開催する。</li> <li>公園再生の体制をつくり、具体的な計画を立案する。</li> </ul>
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備モデル地区の検証と他地域の整備計画を策定する。</li> <li>ウォーキングイベントを開催する。</li> <li>観光客の滞在時間を増加させる。</li> </ul>	

### 平成 23 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政（生活環境課 他 関連部署）・事業者・安曇野環境市民ネットワーク加盟関連団体等	整備モデル地区内での各種団体の取り組み把握（講座、体験等の実施、美化活動等）	5 月～ 11 月	A：「安曇野わさび田湧水群いいの池」清掃、イルミネーション/「みんなで学ぶ安曇野の水巡り」開催/「田淵記念館ワサビ田苗付け体験」開催他
	「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト準備会」による素案の作成（整備モデル地区の整備計画案および管理組織案について）	11 月～ 平成 24 年 1 月	A：「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト準備会」3 回、その他打ち合わせを行い素案作成
	「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト研究会」による整備モデル地区の整備計画および管理組織の基盤づくり	平成 24 年 1 月～ 3 月	A：「歩いて楽しいまちづくりプロジェクト研究会」3 回開催。モデル地区内で事業をしている市民団体と、関連する行政部署が情報交換を行い、新たなアイデアを創出して、協働で事業展開ができるような仕組みづくりを構築。

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク：A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>9 月補正予算後のスタートであったため出遅れたが、その後は順調に進行した。</li> </ul>
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備モデル地区（豊科ビレッジから万水川周辺 三角島まで）において、すぐにできる事業から実施をし、その中で、横の連携をとりながら、組織基盤を構築していく。</li> <li>プロジェクトにおいて策定された内容を、他の部署で今後策定される諸計画、事業等の中でどのように反映し位置付けていくか。</li> </ul>

## 《6》 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る

### このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安曇野の特徴的な環境である田園風景を守る</li> <li>・ 安曇野の農業従事者が魅力を高め、農業従事者や地域が意欲的に農業を続けていくことのできるような環境整備を進める</li> <li>・ 農業従事者がいないために農地が荒廃し、耕作放棄地化するのを防ぐ</li> </ul>	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農地情報の一元管理と利用希望者への提供</li> <li>・ 意欲のある農業従事者への農地利用を促進と新規就農者の受入れ推進</li> <li>・ 耕作放棄地解消のための耕作放棄地での耕作などの活動に市民が参加</li> </ul>	
目標	時期	内容
	平成 23 年度～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 営農支援センターを中心に、新規就農者の育成支援制度の適用を開始する（毎年 3 名を目標）。</li> </ul>
	平成 25 年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 22 年度から開始した育成支援の結果、新たに 3 人の就農者が自立する。</li> <li>・ 耕作放棄地を減らす。</li> </ul>

### 平成 23 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政（農政課） ・ JA ・ 農業委員会 ・ 市農業再生協議会	新規就農者支援事業 （生活支援金支給事業）（目標：3名） ・ 対象者の公募、申込受付～決定～補助金交付 ・ 対象者への農地情報提供、営農指導等 ・ 対象者から営農支援センターへの実績報告	4月～ 通年 平成 24 年 3月	B：計画 3 名に対し、審査会で審査した結果、今年度は 1 名が事業対象になった。この事業の要項に合致しなかったためのもの。昨年度の対象者と併せて 4 名になったが、農地情報提供や営農指導が実施され、実績報告も提出された。
行政（農政課） ・ JA ・ 農業委員会 ・ 市農業再生協議会	耕作放棄地対策 ・ 現地調査（実施～集計～まとめ～有効活用） （耕作放棄地情報提供システム導入～稼働） ・ 耕作放棄地対策相談窓口の充実 ・ 耕作放棄地解消補助事業等促進（堆肥補助、草刈り機・トラクター貸出事業） ・ JA による対策の充実	通年 10月～ 通年 通年 通年	A：実施 A：システム導入し稼働したが、個人情報等の問題も提起された A：充実された B：いくつかのメニューはあるが、周知不足のためか利用の少ないものもあった A：充実された
市民・事業者	市民・事業者による 1 品作付け事業	通年	A：体験教室等を通じ冬物野菜植え付け等がなされた

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク：B ・ 新規就農者支援事業自体は A 評価できるが、耕作放棄地解消という全体的な観点からすると、行政や JA の努力はわかるが、B 評価となる。 ・ 水田はまだ問題が少ないが、畑作地帯での貸し借りによる解消は難しい状況である。 ・ 行政や JA の努力だけでは、難しい部分がある。農地も個人財産であるので、貸し借りの条件等も難しくなっている。 （参考：耕作放棄地面積 H22 調査 54.7ha H21 調査 62.4ha）
次年度への展望と課題	・ 新規就農者支援事業は、今後も続けていき、新たな担い手ができることを期待する。 ・ 更なる耕作放棄地対策の充実が望まれる。 ・ Uターン、Jターン者への支援も必要だが、Uターンした人への支援も検討が必要になってくる。 ・ 兼業農家や退職組の就農者等への支援対策の充実が必要。

## 《7》 地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる

### このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野の農業を活性化する</li> <li>・農業者や地域が意欲的に農業を続けていくことができるようにする</li> </ul>	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より適正な価格で販売することを視野に入れ、地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる</li> <li>・「農業体験講座」等の拡充</li> <li>・農薬、除草剤、化学肥料の使用を削減とこれらに頼らない農業の実践</li> </ul>	
目標	時期	内容
	平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「農業体験講座」等を各地域で開催する。</li> <li>・安曇野産農産物の使用率を把握する方法を検討する。</li> </ul>
	平成 25 年度末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安曇野産農産物の使用率を把握し、地産地消の拡大を確認する。</li> </ul>

### 平成 23 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 （農政課） ・JA ・農業委員会等 ・市農業再生協議会	地元農産物消費拡大 ・「農業体験講座」等を増やし、播種から収穫までの一連の作業や作物の加工体験を行い、農業に対する理解と交流の促進に取り組む	通年	B：市および各団体において実施されているが、市民ニーズを把握しきれているかは調査が必要

[今年度の実施した主な講座等は下記のとおり]

実施主体	事業名	場 所	実施期間	回数	参加人数/回	延べ参加人数
コープながの、JAあづみ	国際協力田圃体験	堀金烏川	5月	1	45	45
コープながの、JAあづみ	ふれあい農園	堀金烏川	4月～11月	15	30	450
あづみ野農業塾	あづみ野農業塾	豊科高家	4月～3月	12	88	1056
堀金公民館	農業体験講座スィカ塾	堀金	4月～8月	4	12.5	50
市農政課	やすらぎ農場 ふれあいセミナー	三郷温	5月～3月	10	23	230
穂高地域営農支援センター	土曜農業塾	穂高有明	2月～11月	35	11	394
堀金地域営農支援センター	烏川体験農場	堀金烏川	2月～1月	18	21	378
堀金地域営農支援センター	三田体験農場	堀金三田	4月～3月	46	22	1012
明科地域営農支援センター	明科農業塾	明科東川手他	3月～12月	36	15.1	542
<b>合 計</b>	<b>10 箇所</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>177</b>	<b>-</b>	<b>4,157</b>

行政 （農政課） ・JA ・農業委員会等	地元産農産物の使用割合把握 ・農産物直売所（6施設）を中心に、地元農産物仕入高（売上高）調査を試行	通年	A：全直売所において、出荷額による地元農産物使用割合算出試行中
行政 （学校給食課） ・JA ・農業委員会 ・農家団体等	学校給食における地域食材の使用率向上	通年	A：地域食材使用率市内産 30.1% 県内産 49.3% （県への報告数値：品目数による割合）

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<b>ランク：B</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験セミナー等は、計画どおり実施できた。</li> <li>・学校給食における地域食材使用率向上は、「食育に関する取り組み」ということで、集中的に取り組みが行われてきている。</li> </ul>
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験セミナーへの参加人数の増加を、関係団体と連携を取りながら図っていくことが必要となる。</li> <li>・地元農産物使用割合について、算出方法について試行中であるが、把握方法についてさらに検討が必要。</li> <li>・地元産は、コメとリンゴが主なものである。今後は3番目の品種を開発していく必要がある。</li> </ul>

## 《8》 豊かな地下水を保全する

### このプロジェクトの基本事項

目的	・ どこでどのくらいの地下水を利用しているかを把握し、地下水利用のルールをつくる。	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下水利用の現状を把握</li> <li>・ 地下水保全方策の検討と地下水保全条例の制定</li> <li>・ 地下水利用基本方針の策定</li> </ul>	
目標	時期	内容
	平成 23 年度	・ 地下水保全対策指針を策定する。
	平成 24 年度	・ 地下水保全条例を制定する。

### 平成 23 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (生活環境課) ・ 委員会の主催 ・ 調査の実施 ・ シンポジウムの開催  市民・事業者 ・ 委員会への参加 ・ 調査への協力 ・ シンポジウムへの参加、協力	地下水保全対策研究委員会の開催 (回次は平成 22 年度からの通番) 第 6 回研究委員会 ・ 平成 23 年度運営方針 ・ 安曇野地域での取り組み案 ・ シンポジウム開催要項(案)の検討	5 月	A : 5 月 20 日に実施
	地下水利用実態調査、市民アンケート(対象: 1,500 名) 地下水解析等の実施	6 月 ~ 7 月	A : 市民アンケートは、7 月 1 日から 22 日にかけて実施 地下水利用実態調査、地下水解析等については、4 月に公表予定
	第 7 回研究委員会 ・ 地下水利用調査、市民アンケート結果報告 ・ 地下水解析による取り組みの結果報告	7 月	A : 7 月 21 日に実施
	地下水シンポジウムの開催	8 月 6 日	A : 8 月 6 日に実施し、約 250 人が参加 同時開催: みんなで学ぶ「安曇野の水巡り」35 人参加
	第 8 回研究委員会 ・ 指針策定に関する協議 ・ 作業部会での検討結果報告 ・ 意見交換	10 月	A : 10 月 13 日に実施
	第 1 回作業部会 ・ 地下水資源強化部会 ・ 社会システム・資金調達部会	10 月	A : 11 月 19 日に実施
	第 9 回研究委員会 ・ 指針素案に関する協議 ・ 作業部会での検討結果報告 ・ 意見交換	12 月	A : 12 月 6 日に実施
	第 2 回作業部会	平成 24 年 2 月	A : 平成 24 年 2 月 8 日に実施
	第 10 回研究委員会 ・ 指針(案)の確認と意見交換	2 月	A : 2 月 23 日に実施

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク : A ・ 概ね計画通りに実施している。
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下水保全条例(仮称)を制定する。</li> <li>・ 条例を制定するにあたり、地下水のかん養、それを進めていくための制度等について、実効性のあるものにしなければならない。</li> </ul>

## 《9》 ごみを減らそう

### このプロジェクトの基本事項

目的	・可燃ごみの約4割を占める生ごみの減量は、処理するごみの総量の削減に大きな効果があるので、具体的な方策を検討・実現する。	
方向性	・家庭で出来る堆肥化の促進 ・事業系における有効な手段の検討	
目標	時期	内容
	平成23年度	・廃棄物対策課を中心に、事業系生ごみ処理の対策を検討する組織を設置する。 ・家庭系生ごみ処理（検討された対策）を実施する。

### 平成23年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (廃棄物対策課)	高齢者世帯向けごみ収集体制の研究	6月～平成24年1月	E：研究中
	一般廃棄物処理基本計画の策定 ・パブリックコメントの実施	8月	A：8月26日から9月25日に実施
	・一般廃棄物処理基本計画の策定	9月	A：10月に策定
	段ボール堆肥の推進 ・講習会の開催（豊科）	9月～10月	A：豊科リサイクルセンターで11月5日に実施 A：穂高会館で10月26日に実施 また、公民館講座として5月18日に実施
	・講習会の開催（穂高）		
	環境学習の推進 ・リサイクルセンター見学（小・中学生） ・ごみの分別の仕方（一般市民）	9月～11月	A：11月5日に段ボール堆肥の講習会と同時に開催
	事業系生ごみ処理の対策を検討する組織の設置 ・市有施設における資源化の推進	9月～平成24年3月	D：10月から11月にかけてアンケートを実施
市民	段ボール堆肥の推進 ・講習会の開催（年6回程度）	通年	A：市内については、上記のとおり、また、それ以外に8回開催
事業者	生ごみ処理機普及の推進 ・生ごみ処理機の展示会	10月（あづみ野環境フェアにて）	D：今年度については、展示がなかった

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	<p>ランク：C</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業系生ごみ処理の対策を検討する組織は、設置にいたらなかった。</li> <li>・家庭系生ごみ処理の対策実施について、段ボール堆肥、ボカシについては概ね実施できていると思うが、それ以外の対策についての研究が必要である。</li> </ul>
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般廃棄物処理基本計画が策定されたため、計画の実行について、より一層の検討が必要だと思われる。</li> <li>・ごみとされているもの全般について3R、5Rを進め、全体量を減らしていく必要があると思われる。</li> <li>・事業系生ごみ処理の対策を検討する組織については、まず市有施設での研究を進め、その結果をもって、次年度以降に設置する。</li> </ul>

## 《10》 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり

### このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習会や講座などを通しての環境保全への理解と参加を呼びかける。</li> <li>・ 市民、事業者、行政の環境保全活動の教育・情報体制を構築する。</li> </ul>	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境教育に取り組む人材の育成</li> <li>・ 環境に関する情報の蓄積と提供</li> <li>・ 環境に関する学習機会の提供</li> </ul>	
目標	時期	内容
	平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安曇野環境市民ネットワーク主体の環境学習を開始する。</li> <li>・ 環境情報の整備とライブラリー化を開始する。</li> </ul>
	平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安曇野環境インストラクター制度を検討する。</li> </ul>
	平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境情報の整備とライブラリー化を完了させる。</li> </ul>

### 平成 23 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政・教育委員会・安曇野環境市民ネットワーク等の市民団体	環境に関連する公民館講座等実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「水が織りなす安曇野今昔物語」講座</li> <li>・ ダンボール堆肥づくり講座</li> <li>・ 各地域での文化祭での環境関連団体等による展示、啓発活動</li> </ul>	通年	A：「水が織りなす安曇野今昔物語」講座は安曇野検定として実施、またそれ以外のものについてはそれぞれ実施した
	環境情報のライブラリー化の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市ウェブサイト・あづみ野エコプラン.net 等での情報発信</li> <li>・ 図書館における環境関連図書の充実</li> </ul>	通年	A：環境関連事業の情報を発信 また、環境関連の図書館講座の実施。環境関連書籍を並べた企画コーナーの設置
	市内小中学校における環境学習等の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あづみ野環境フェア 2011、安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012 への参加</li> </ul>	通年	A：環境学習・活動の実施（全学校）信州教育の日 安曇野大会での環境学習関連事例発表等 あづみ野環境フェア、フォーラムへの参加
	環境学習の現状と課題抽出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内小・中学校等「環境学習実施状況及び意向調査」の実施</li> <li>・ 上記アンケート調査の分析と環境学習プログラムへの反映の検討</li> </ul>	10月・平成 24年 3月	A：市内、小中学校へのアンケート等の調査を実施し、現状把握、意向調査を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あづみ野環境フェア 2011、安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012</li> </ul>	12月	A：上記調査の分析を行い、環境学習プログラムへ反映。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あづみ野環境フェア 2011、安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012</li> </ul>	12月～平成 24年 2月	A：あづみ野環境フェア、フォーラムを開催し、環境関連団体間の情報交換等を行う。
	環境インストラクター制度の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境インストラクター制度の検討を開始する</li> </ul>	10月・平成 24年 3月	A：インストラクター制度より、まずはコーディネーター的な人材育成が重要。また専門知識以外に子どもたちに教えるためのテクニック等を習得するためのセミナー実施も今後検討。

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の実績評価	ランク：A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査等の実施により、現況および意向把握および分析ができた。</li> <li>・ 上記調査結果の分析を踏まえ、環境学習プログラムへの反映を検討した。</li> </ul>
次年度への展望と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者側の意向に沿った環境学習プログラムの提示と活用の促進</li> <li>・ 環境学習プログラム提供側の質の向上を目指すための施策の検討</li> </ul>

## 《11》 環境マネジメントシステムの導入

### このプロジェクトの基本事項

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の業務の環境負荷低減および定めた目標を確実に実行する。</li> <li>中小事業者への EMS の導入により環境負荷を低減させる。</li> </ul>	
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の業務への EMS 導入</li> <li>中小事業者への安曇野版 EMS 導入支援</li> </ul>	
目標	時期	内容
	平成 23 年度	庁内への EMS の導入の可否を決定する。
	平成 24 年度	安曇野版 EMS の検討を開始する。
	平成 25 年度	安曇野版 EMS の原案を完成させる。

### 平成 23 年度の実施計画および結果

実施計画			結果
主体	内容	時期	
行政 (生活環境課)	総務課・人事課・生活環境課で EMS 研究プロジェクトチーム設 立および運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>EMS 導入に向けた資料収集 (ISO14001・エコアクション 21・LAS-E・それ以外のシス テムについての検討資料作成)</li> <li>EMS 導入についての方針を 検討</li> <li>EMS 導入スケジュールの検討 (含む、職務遂行の分庁方式から 統合方式への検討、本庁舎建設に 同期して)</li> </ul>	7月～	A：生活環境課において、 検討資料を作成し、11月 から庁内関係者の会議を 開催し、検討を行った。 (目的、基本的な考え方、 環境基本計画における位 置付け、EMS 概要等の共 通認識の上で今後の進め 方について確認した)
	環境基本計画庁内調整会議での EMS 導入についての方針検討	平成 24 年 1月～	

### 実績の評価と次年度への課題等

本年度の 実績評価	ランク：B <ul style="list-style-type: none"> <li>新庁舎での事務執行にあたっては、システムとしての導入を実施する。</li> <li>検討時期が当初予定より遅れた。</li> </ul>
次年度へ の展望と 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム検討については、平成 24 年度に庁内 P J を立ち上げ検討を進めるとともに、 専門家やコンサルにアドバイスを求める。</li> <li>事務局は当面、生活環境課で行い、基礎的な方向が決まった時点で担当課へ移行する。</li> </ul>

## 4. 次年度へ向けて

### 4-1. 市全体のテーマの進行

年次テーマ「安曇野の水を知り、守り、育む」については、平成 24 年度第 1 回環境基本計画推進会議において、そのまま継続するか、テーマを変更するかを検討します。

長期テーマ「地球温暖化防止にみんなで取り組む」については、本年度に引き続き展開をはかります。

市全体のテーマの展開方法としては、関連する重点プロジェクトを着実に推進するとともに、環境フェア等のイベントや広報等を通じた普及啓発を積極的に行います。

関連する重点プロジェクト

歩いて楽しいまちづくり

豊かな地下水を保全する

環境について教え学び、取り組む仕組みづくり

イベント等でのテーマ設定

あづみ野環境フェア 2012（仮称）でのテーマ設定

安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 等

広報等での普及啓発

年間を通じた連載記事の掲載

ウェブページの活用 等

### 4-2. 重点プロジェクトの推進

重点プロジェクトについては、前項に示した平成 23 年度の結果と環境行動計画に基づき、次年度の実施計画を立案して推進します。具体的な内容は、次年度当初に策定する「平成 24 年度実施計画」にて示す予定です。

重点プロジェクトごとの次年度への展望と課題を以下に示します。

#### 重点プロジェクト別平成 24 年度への展望と課題

重点プロジェクト名	平成 24 年度への展望と課題
CO <sub>2</sub> 削減目標を設定する	・ 策定した実行計画を広報していくとともに、実効性を持たせていく。 ・ 市民、事業者の皆さんの取り組みについて把握し、広く紹介していく仕組みづくりに取り組んでいく。
生物多様性を維持する	・ 実態の把握に伴い計画の遂行に向けた対象・予算等の見直しが必要 ・ 専門家の調査から次第に市民を巻き込んだ計画を展開
森づくりを推進する	・ 森林（里山）の現状を正しく把握し、円滑な森林整備や森林資源の有効活用など、実効的な計画とするための基本方針や取り組み内容を検討する必要がある。また、検討の過程を市民に公開し、広く意見を募る必要がある。

（次のページにつづく）

重点プロジェクト別平成 24 年度への展望と課題（つづき）

重点プロジェクト名	平成 24 年度への展望と課題
緑化による環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑のカーテンは、震災後の社会変化に伴う省エネ志向、CO<sub>2</sub>削減への関心が集まり、一般市民が取り組む機運が高まったことを受けて、苗の植え方や水やりといった生育に必要な情報を適時に流すことを行う。</li> <li>・ 学校校庭の芝生化は維持管理(費用面含む)および利用側の評価等を取りまとめた資料(三郷小、保育園、穂高西小等のデータから)を作成し、今後の推進について検討する。</li> </ul>
歩いて楽しいまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 整備モデル地区(豊科ビレッジから万水川周辺 三角島まで)において、すぐにできる事業から実施をし、その中で、横の連携をとりながら、組織基盤を構築していく。</li> <li>・ プロジェクトにおいて策定された内容を、他の部署で今後策定される諸計画、事業等の中でどのように反映し位置付けていくか。</li> </ul>
耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新規就農者支援事業は、今後も続けていき、新たな担い手ができることを期待する。</li> <li>・ 更なる耕作放棄地対策の充実が望まれる。</li> <li>・ Uターン、Jターン者への支援も必要だが、Uターンした人への支援も検討が必要になってくる。</li> <li>・ 兼業農家や退職組の就農者等への支援対策の充実が必要。</li> </ul>
地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業体験セミナーへの参加人数の増加を、関係団体と連携を取りながら図っていくことが必要となる。</li> <li>・ 地元農産物使用割合について、算出方法について試行中であるが、把握方法についてさらに検討が必要。</li> <li>・ 地元産は、コメとリンゴが主なものである。今後は3番目の品種を開発していく必要がある。</li> </ul>
豊かな地下水を保全する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下水保全条例(仮称)を制定する。</li> <li>・ 条例を制定するにあたり、地下水のかん養、それを進めていくための制度等について、実効性のあるものにしなければならない。</li> </ul>
ごみを減らそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般廃棄物処理基本計画が策定されたため、計画の実行について、より一層の検討が必要だと思われる。</li> <li>・ ごみとされているもの全般について3R、5Rを進め、全体量を減らしていく必要があると思われる。</li> <li>・ 事業系生ごみ処理の対策を検討する組織については、まず市有施設での研究を進め、その結果をもって、次年度以降に設置する。</li> </ul>
環境について教え学び、取り組む仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者側の意向に沿った環境学習プログラムの提示と活用の促進</li> <li>・ 環境学習プログラム提供側の質の向上を目指すための施策の検討</li> </ul>
環境マネジメントシステムの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ システム検討については、平成 24 年度に庁内PJを立ち上げ検討を進めるとともに、専門家やコンサルにアドバイスを求める。</li> <li>・ 事務局は当面、生活環境課で行い、基礎的な方向が決まった時点で担当課へ移行する。</li> </ul>

#### 4-3. その他、推進会議委員からの意見等

---

##### (1) 今期（平成22年度～平成23年度）の検討を通じて

- ・自分たちが計画したものが実行されつつあり、目に見えている実感がある。
- ・3段階評価をするときに、無理がある計画はやはりCランクになっているが、それはそれでいいのではないか。次年度どうしていくかを考えればよい。1年1年着実に実施していくことがこの会議のねらいだと考えている。
- ・この会議では、幅広くいろんな人に意見を言ってもらって、取り組みの参考になればいいのではないか。
- ・これまでの計画をいかに実行していくかが課題。他の計画でとても立派なものもあるが、どれだけ見られているのかが疑問。
- ・立てた計画について、すべてがうまく動くわけではなく、それは仕方がないことだ。「歩いて楽しいまちづくり」が動き出したのはよかった。さらに多くの人とつながり、発展させたい。
- ・各メンバーが忙しいながら意欲的に取り組んでいる。走り始めれば壁にぶつかるのが常だが、来年は中間見直しのタイミングであり、この後どうするかが大事。一つずつ急がずやっていくことだ。計画の存在を市民の大多数が知らない現状があり、もっと啓発が必要。来年のテーマだろう。市民が動くようにしていきたい。
- ・計画策定から関わってきたが、1歩前へ出たのかどうか？この程度でいいのか？と考えることもある。みんなで1歩前へということが、推進会議でできるといい。果たし得ないものを仲間たちが一歩ずつ着実に進めてくれているという実感がある。
- ・フェア、NWなど、それぞれが分担しあってやっている大事なこと。今日まで続けてきたことを、今後も続けていきたい。

##### (2) 推進体制について

- ・環境市民ネットワークが機能していないのが残念。本来は、環境基本計画の実働部隊として立ち上げた。残念ながら、環境フェアやフォーラムなどのイベントだけで終わっており、横に広がっていない。次年度NWの中で話し合っ、環を広げるしかけを作っていく必要がある。やってくれる人がいなければ動かない。NWが、中間に立って動いてくれるリーダーのような仕組みになるといい。
- ・自治会や地区の環境部のように、地域に密接につながっている人は大事だ。環境部はごみだけ、という意識を変え、地域のリーダーとして指導していく必要がある。
- ・生活環境課は非常に熱心だが、それ以外の部署の意識が低い。新しい公共施設について、予算がないために太陽光発電などの設備がつけられないというが、環境を先に考えてそのための予算を確保するようにしてもらいたい。
- ・行政の部局によっては、意識の低いところもある。他部門も生活環境課と同じような意識でいるように、行政で一本の筋を通してもらいたい。

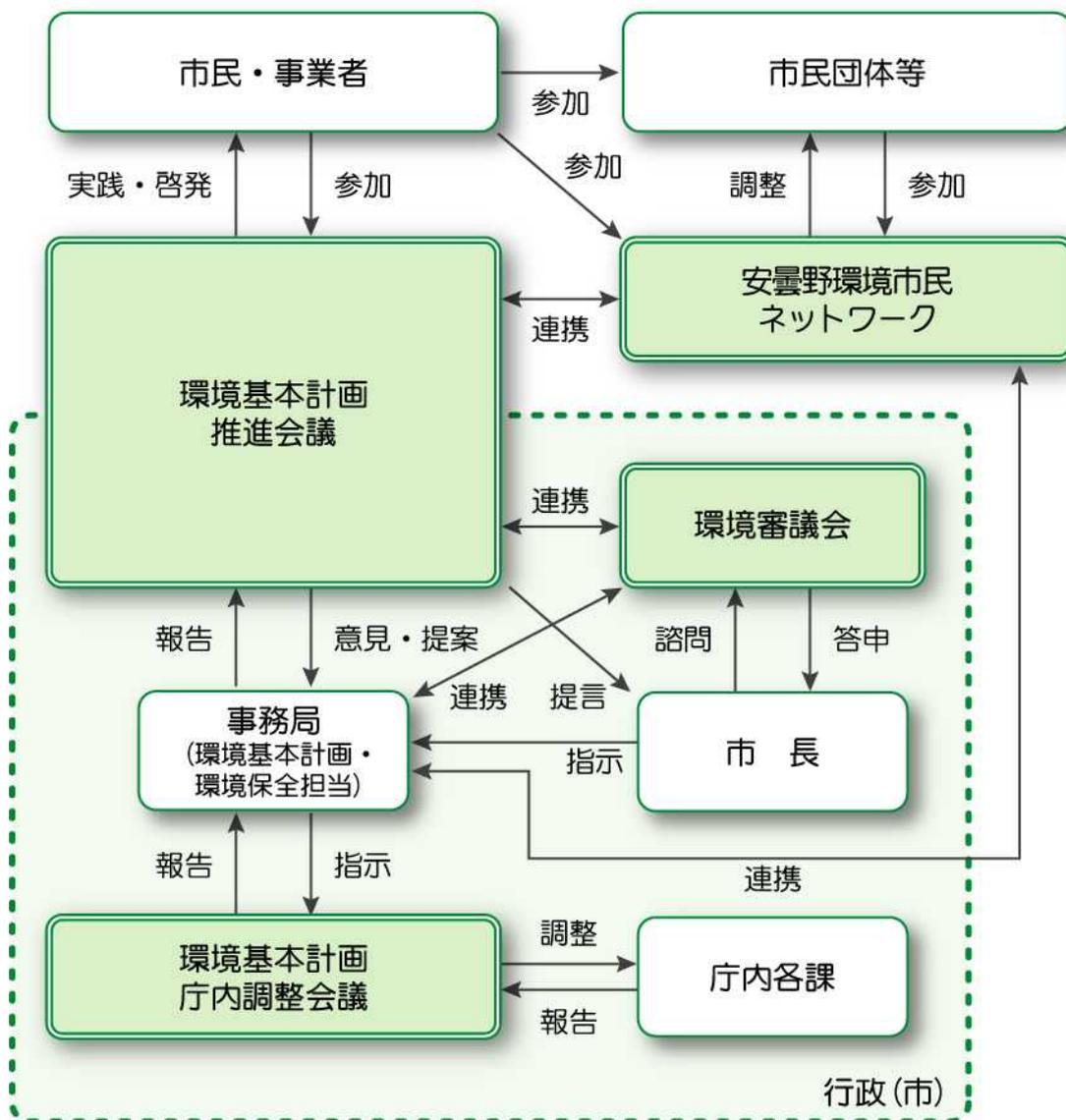
参考資料 1 : 環境基本計画の推進体制と進行管理

【推進体制】

環境基本計画は、市民・事業者・行政、その他関係する組織・団体など、さまざまな主体の各自の取り組みと、相互の連携や協働によって推進する必要があります。

環境基本計画を受けて策定した環境行動計画において定めた推進体制を、下の図に示しました。中核となるのは、市民・事業者・行政を含めた組織である「環境基本計画推進会議」であり、市全体としての計画の進捗状況の把握、課題点および対応策の検討などを行う機能です。このほか、行政内部の調整組織である「環境基本計画庁内調整会議」、専門的な見地から計画の達成・進捗状況を点検・評価する「環境審議会」のそれぞれが連携して計画の推進をはかります。

また、平成 21 年 9 月に発足した「安曇野環境市民ネットワーク」も、さまざまな市民団体などをとりまとめ、団体間の調整・連携をはかるとともに、事業者・行政との協働の窓口として機能します。



推進体制 (環境行動計画版)

## 【進行管理】

環境基本計画の進行管理フローは、マネジメントの基本的なサイクルである PDCA サイクル（計画（Plan） 実行（Do） 点検・評価（Check） 改善（Action））にしたがって進行します。

このサイクルは、毎年においては年度別実施計画に基づいた年間の取り組みと進捗状況をまとめた年次報告が基本となります。

### 計画する（Plan）

事務局は、環境基本計画・環境行動計画を基盤として年次の実施計画を策定します。2年目以降は、「環境基本計画推進会議」の結果である「年次報告」に基づき、「環境審議会」および市民・事業者などの意見から庁内担当各課の年次目標を設定し、年次実施計画を策定します。

### 実行する（Do）

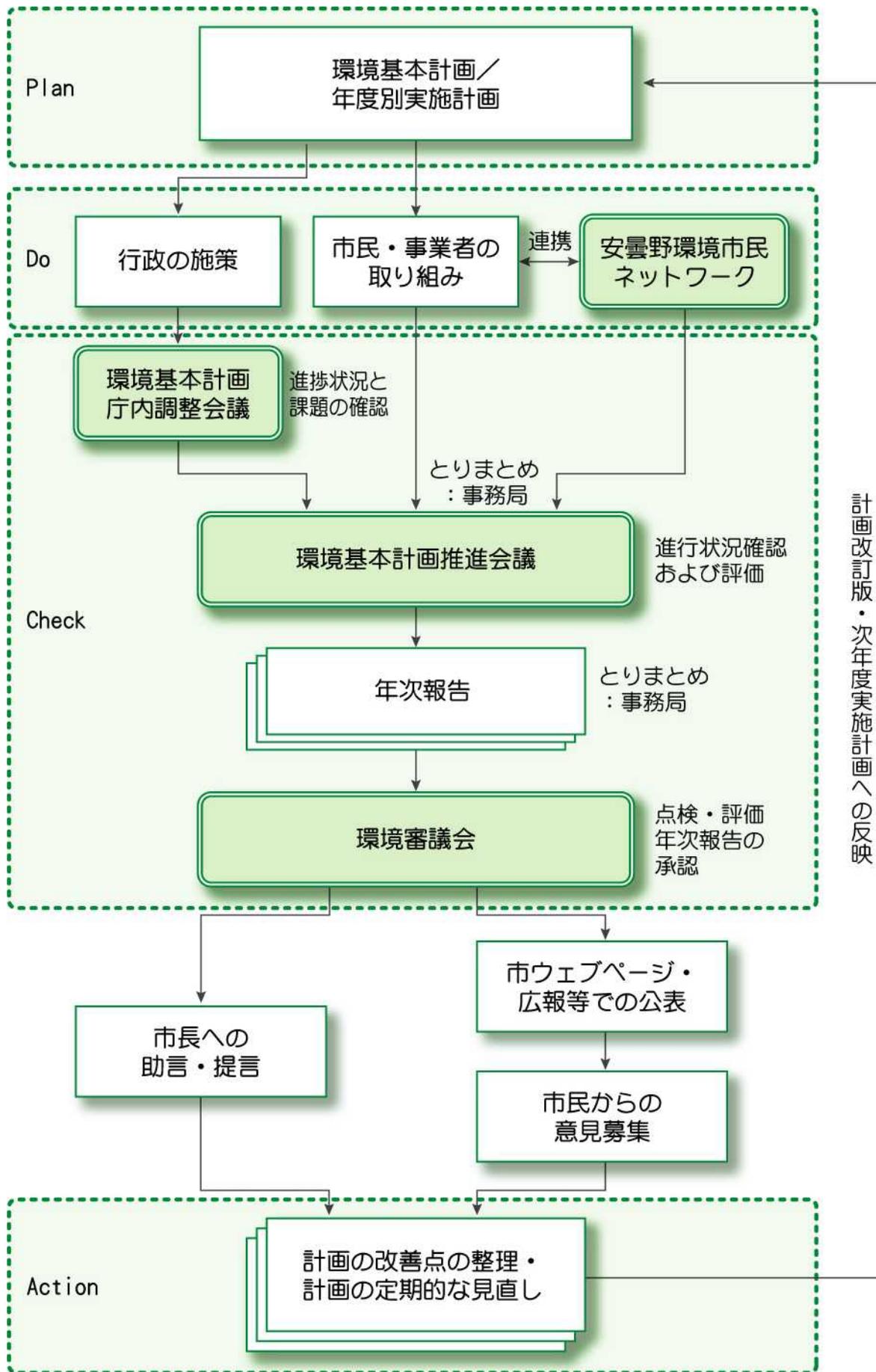
各主体は実施計画に基づき、前項の推進体制に沿って取り組みを進めます。進捗状況については、「環境基本計画推進会議」や「環境基本計画庁内調整会議」において把握し、調整を行います。

### 点検する・評価する（Check）

事務局は、実施計画に基づき行った取り組みの結果について集約を行い、各会議に報告します。「環境基本計画推進会議」では、市全体の取り組みの結果を集約し、「年次報告」を作成します。「年次報告」は「環境審議会」での点検・評価を行うとともに、広く市民・事業者公表して意見を募ります。

### 見直す・改善する（Action）

事務局は、「環境審議会」での点検・評価結果、および「年次報告」に対して寄せられた意見について対応を検討し、次年度の年次実施計画への反映と、必要に応じて計画の見直しを行います。



進行管理（環境行動計画版）

参考資料 2 : 環境基本計画推進会議名簿

役職	氏名	団体名など	選任区分
会長	千國 温	旧環境基本計画策定委員	市長推薦
副会長	小岩原 哲夫	安曇野市商工会	事業団体代表
	植松 晃岳	旧環境基本計画策定委員	市長推薦
委員	本木 修一	安曇野工業会	事業団体代表
	中嶋 勝美	安曇野市農業委員会	
	増田 智幸	J A あづみ	
	望月 静美	安曇野市消費者の会	環境関連 団体代表
	岡江 正	長野県建築士会安曇野支部	
	太田 忠雄	安曇野市地球温暖化防止活動推進協議会	
	宮崎 崇徳	安曇野環境市民ネットワーク	公募委員
	田村 恵子	-	
	樋口 嘉一	-	
	近藤 眞奈美	旧環境基本計画策定委員	市長推薦
	二木 正司		
	山本 彩乃		



推進会議の様子 (平成 23 年 5 月 31 日)



幹事会 (平成 24 年 3 月 27 日)

参考資料3：写真アルバム 【環境フェア】



パネル設置中（前日準備）



市長あいさつ（1日目）



トークセッション（1日目）



コンサート（1日目）



ブースの状況（1日目）



パペットシアター（1日目）



ぷちエコセミナー（1日目）



スタンプラリー・景品引換所の状況（1日目）



特別上映会「RYO と彩の安曇野水物語」(1日目)



屋外ブースの状況(1日目)



屋敷林フォーラム(2日目)



特別上映会「矢原堰 白井弥三郎物語」(2日目)



市民大学講座 山本良一氏講演会(2日目)



花の苗配付(2日目)



積み木コーナー(2日目)



閉会式(2日目)

【安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012】



展示準備



展示準備



誘導サイン



展示状況



展示状況



展示状況



ネットワーク座長あいさつ



発表（安曇野市消費者の会）



発表（屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト）



発表（ふるさとづくり応援団）



発表（屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト）



発表（安曇野市生物多様性技術委員会）

参考資料4：イベント参加団体一覧

【あづみ野環境フェア2011】

出展団体（分類ごとの五十音順）

分類	団体名	分類	団体名
環境全般	安曇野環境市民ネットワーク 安曇野工業会 安曇野市環境基本計画推進会議 安曇野市地下水保全対策研究委員会 安曇野市地球温暖化対策実行計画検討委員会 安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会 NPO 法人あづみ野風土舎 キッセイ (株)サクセン 3R 遊びのおじさん（長野県地球温暖化防止活動推進委員） 信州大学松本キャンパス環境 ISO 学生委員会 セイコーエプソン労働組合 安曇野市社協・ささえあいセンター「にじ」 エクセラン高等学校 持続可能な松本平創造カンパニーわおん 積み木であそぼうコーナー トゥモロウ・リーディング・倶楽部(TLC) 長野県環境保全研究所 穂高西小学校平成22年度6年3組 マイ箸づくりサポートボランティア	生活	NPO 法人ほたか野の花 アート信州（有） あづみ太陽光発電研究会 安曇野市生活環境課・安曇野防犯協会連合会 安曇野市地域公共交通協議会 安曇野市廃棄物対策課 安曇野市下水道課・安曇野建設事務所・(財)長野県下水道公社 安曇野市消費者の会 安曇野市食育推進会議 安曇野の環境を守る市民の会 関東農政局松本地域センター NPO 法人CO2 バンク推進機構 信州はりきゅう研究会 生活協同組合コープながの 生活クラブ生活協同組合 穂高広域施設組合 マックスバリュ長野(株) 松本市消費者の会波田地区
	自然		景観
建築		安曇野建築三会	
農業	安曇野市農地・水・環境保全向上対策事業 おぐらやまの風景 nano 花隊 バジルクラブ	エ礼ギ-	安曇野市耕地林務課（ペレットストーブ） かえる311 (株)角藤 中南信支店 サンシンエクスプレス(株) 中部原子力懇談会 デュプロ(株) 松本営業所 ホソダクリエイティブ(株)

ぶちエコセミナーほか

団体名	内容
あづみ太陽光発電研究会	安心して性能の良い「太陽光発電所」のノウハウを紹介！
NPO 法人CO2バンク推進機構	家庭でできる、エコして、得する節電術の紹介
松本市消費者の会波田地区	「暮らしの中に息づいている食器 ～甦る不用食器の再生～」
エクセラン高等学校	薄川の外来種（植物）について
(株)角藤 中南信支店	地中熱を利用した冷暖房設備の紹介
デュプロ(株) 松本営業所	デュプロから『紙をリサイクルする文化を広めたい』という想いを込め小型製紙装置 RECOT iO（レコティオ）の紹介
アルプス桜の会	花の苗プレゼント（先着200名）
穂高西小学校 平成22年度6年3組	安曇野初の横堰「矢原堰 臼井弥三郎物語」 映画上映

## 【安曇野環境市民ネットワーク・フォーラム 2012】

発表（7 団体）：3月3日（土）13:30～16:00

安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会	『協議会の活動概要と「うちエコ診断」について』
安曇野市消費者の会	『家庭でできるぶちエコアクション講座の紹介』
屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト	『プロジェクトの活動の紹介』
三角島ふるさとの森プロジェクト	『身近な自然観察活動の紹介』
NPO 法人信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部	『ふるさとウォッチングの事例紹介』
安曇野百選プロジェクト	『ウォークラリーの事例紹介等』
安曇野市生物多様性技術委員会	『安曇野市 身近な生きもの調査について』

展示：環境学習プログラム事例（14 団体）

安曇野緑の会	『安曇野を代表する桜と、桜の苗の育成等、植樹活動の紹介』
NPO 法人 川の自然と文化研究所	『身近な川の生きものたち』
屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト	『屋敷林と歴史的まちなみプロジェクトの活動の紹介』
三角島ふるさとの森プロジェクト	『三角島ふるさとの森プロジェクトの活動の紹介』
NPO 法人 信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部	『ふるさとウォッチング等の活動の紹介』
安曇野百選プロジェクト	『ウォークラリー・ビューポイント等の活動紹介』
安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会	『協議会について 活動概要について うちエコ診断について』
安曇野市消費者の会	『家庭でできるぶちエコアクション講座について』
安曇野市生物多様性技術委員会	『安曇野市生きもの調査について』
NPO 法人 川の自然と文化研究所	『NPO 法人 川の自然と文化研究所の活動の紹介』
NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会	『NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会の活動の紹介』
穂高西中学校	『穂高西中学校の環境教育』
明北小学校（5 学年）	『潮沢地域調べと明科廃線敷きの清掃活動について』
豊科南小学校（6 学年）	『百石堰と私たちの活動の歩み』

## 参考資料5：重点プロジェクトの取り組み状況

ここでは、本年度取り組んだプロジェクトごとの成果物や実施状況の写真などをご紹介します。

### CO<sub>2</sub>削減目標を設定する

・ 作成した概要版



・ 委員会実施状況



(平成24年3月28日)

### 生物多様性を維持する

・ アレチウリ駆除活動状況



(平成23年8月20日)

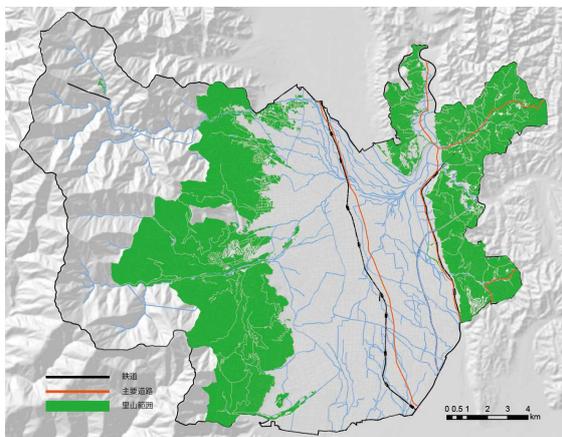
・ 生物調査実施状況



(平成23年8月16日)

### 森づくりを推進する

・ 里山の範囲（里山再生委員会提示資料から）



・ 里山再生委員会実施状況



(平成24年2月10日)

学校芝生化に関する聞き取り調査結果（穂高西小学校）

フィフトン芝の場合

【予算（社会教育課 スポーツ振興係）】

- ・ 水利組合への利用料：1万円/年間
  - ・ 肥料代                  ：約2.3万円/年間
- その他 H22 カッター3台購入。芝刈り機は「みらい」から借りてきている。

【作業】

- ・ ボランティアの2名（まったくのボランティア）と用務員さん1名が主体となり管理

【内容】

- ・ 春先に施肥
- ・ 6月～9月 2週間に1回の割合で「みらい」から、芝刈り機を借りてきて作業を実施。また、周囲のトラックに延びたランナー切除作業も併せて実施（1回当たりの作業、3時間）
- ・ 必要に応じ水遣り（散水機による 用務員さん対応）

【考察】

メリット

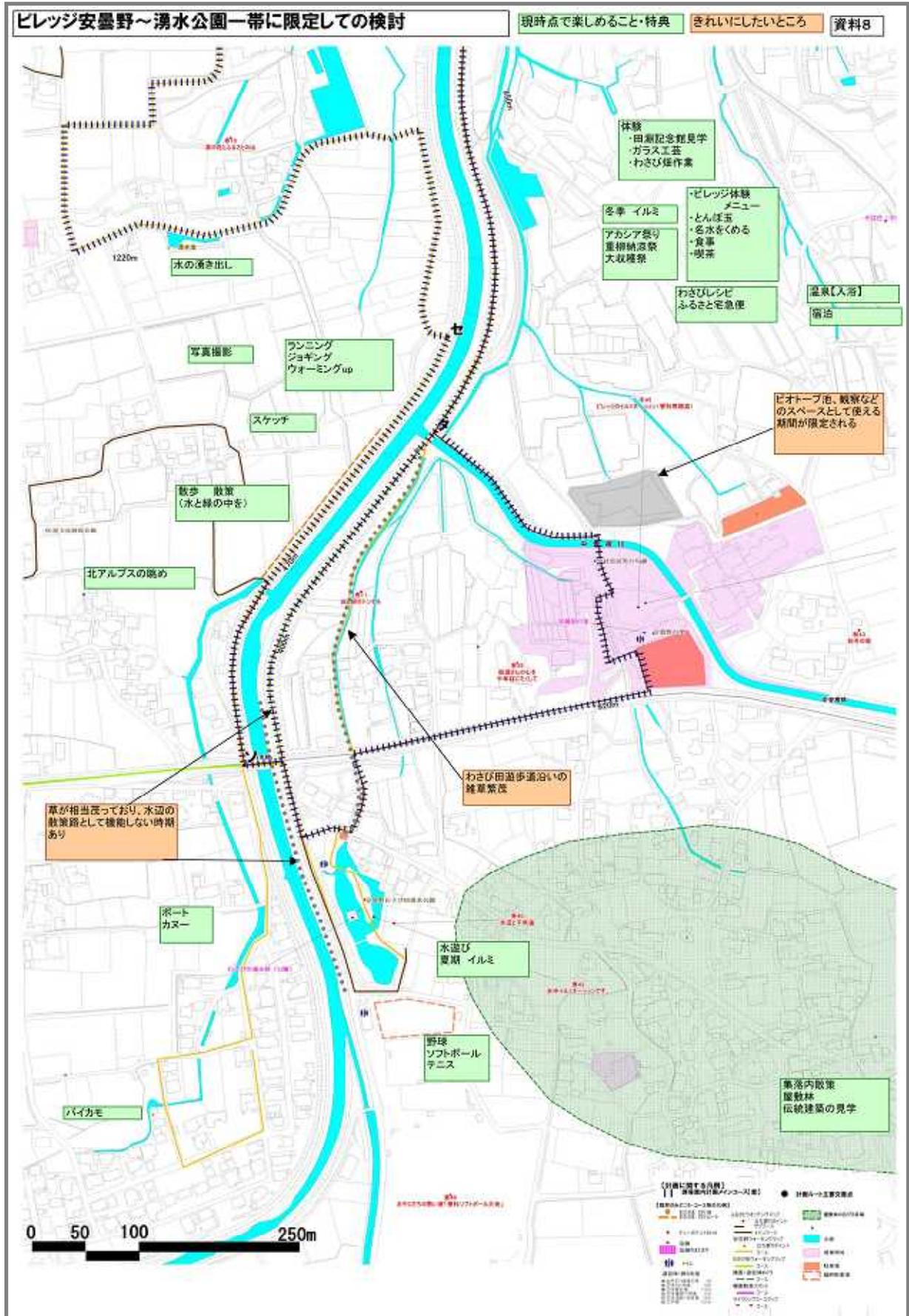
- ・ 初期投資...苗代と、肥料他で40万程度で穂高西小学校規模の面積の芝貼りができる。（但し、芝貼り作業はPTAで実施）
- ・ 管 理...施肥、芝刈り作業、水遣りだけで、専門的な知識がなくても管理が容易。経費もほとんどかからない。（但し、作業は、ボランティアが前提）当初、フィフトン芝が、冬季の温度に対応できるか懸念されていたが、生育には問題ないことが判明。
- ・ 利用者側...埃がたたなくなった（特に運動会等）  
転んでも怪我がないので、思いきり体が動かせる 体力の向上  
夏場のグラウンド及びその周辺の気温の軽減がはかれる。

デメリット

- ・ 管 理...管理は容易といっても、学校側で維持管理をすることは不可能。土・日にボランティア等で作業をしてくれる人（団体）がいないと、別途人件費がかかる。  
現在、大型の芝刈り機が、「みらい」にしかないので、作業のたびに運搬が必要。  
穂高西小のようにグラウンド脇に用水路がなければ芝生化は難しい。  
（用水路が近くにない場合は、スプリンクラー設置 最低でも500万）  
芝生を貼ることにより、競技によっては使いにくくなる（サブグラウンド等があり、どちらか片方が芝生であればよいのだが、現在の所、中途半端な面積しか芝生化ができないので、芝生化することで、逆に使いにくくなる。）

歩いて楽しいまちづくり

・ 特定の地域における検討の状況（例）



## 耕作放棄地を減らして安曇野の風景を守る

- ・市内のボランティア団体による活動（例：nano 花隊）



左・ヒマワリ畑の草刈り / 右：ナタネの選別

## 地元産農産物の地域内での消費拡大をはかる

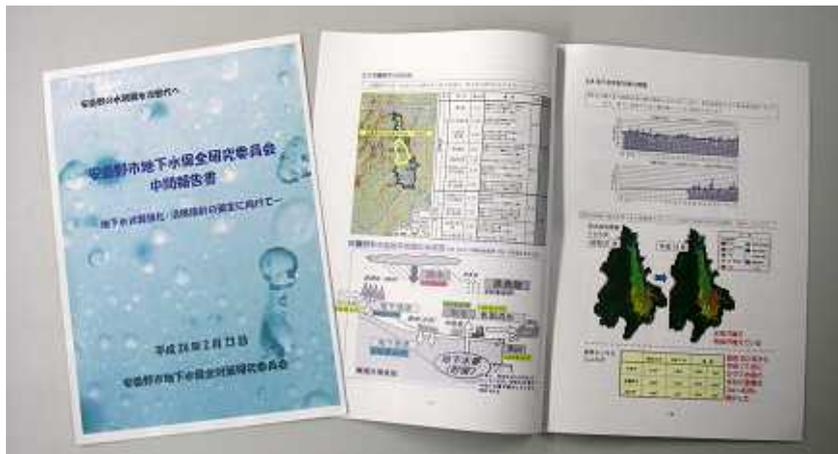
- ・市ウェブページでの食に関する情報発信：

<http://www.city.azumino.nagano.jp/shokai/oishi/index.html>

A screenshot of the Azumino City website. The page is titled "おいしい安曇野" (Delicious Azumino). It features a navigation bar with links for "暮らしの便利帳", "事業者の皆さんへ", "行政情報", and "安曇野市の紹介". The main content area includes a section for "おいしい安曇野" with a photo of a woman and child, and text about local products. Below this, there are links for "おいしい" experiences, a "地域産の食材・旬の食材を食べよう!" section, and a "安曇野探訪ぐるめマップ" section. There are also sections for "安曇野レシピ" and "農産物直売所のご案内". The footer includes a copyright notice and a logo for "食育推進キャラクター たべたくん".

## 豊かな地下水を保全する

- 作成した中間報告書



## ごみを減らそう

- 段ボール堆肥講習会の状況



(平成 23 年 10 月 26 日)

## 環境について教え学び、取り組む仕組みづくり

- 本年度まとめた環境学習プログラムの一覧

	プログラム	団体名等
1	快適住まいづくり相談 (省エネ・耐震・高齢化対策等)	安曇野建築三会
2	じっくりみよう 学校のまわり (景観教育プログラム)	
3	景観ウォークラリー	安曇野百選プロジェクト
4	三角島の自然と景観の紹介	三角島ふるさとの森プロジェクト
5	ふるさとウォッチング	NPO 法人 信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部
6	屋敷林の紹介	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
7	マツ枯れ被害木によるアカゲラ 巣箱づくりとマツ枯れ予防	安曇野再活の松プロジェクト
8	桜の観察会・苗木の植樹	安曇野緑の会
9	花のじゅうたん作り体験	アルプス花街道実行委員会
10	河川の自然観察会	NPO 法人 川の自然と文化研究所
11	拾ヶ堰の歴史と自然観察	拾ヶ堰応援隊
12	ツキノワグマの生態・対処法	NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会

	プログラム	団体名等
13	田淵行男の人と業績	田淵行男記念館 こども自然観察教室「むしの会」
14	楽しい里山での体験学習	NPO 法人 森倶楽部 2 1
15	バードウォッチングと安曇野の野鳥	野生生物資料情報室
16	安曇野の自然	
17	里山歩きと安曇野の自然	
18	安曇野自然案内人養成講座	
19	ぬかくど炊飯体験	NPO 法人 信州ふるさとづくり応援団 安曇野支部
20	搾油体験	nano 花隊
21	循環型農業の実践を通じた学び	バジルクラブ
22	家庭でできるプチエコアクション	安曇野市消費者の会
23	段ボール堆肥づくり	nano 花隊
24	地球温暖化防止活動/ 中小企業の EMS 支援	安曇野市地球温暖化防止活動推進員協議会
25	キャンドルナイトの企画	100万人のキャンドルナイト in 安曇野実行委員会
26	マイ箸・箸袋づくり体験	マイ箸づくりサポートボランティア

## 環境マネジメントシステムの導入

- ・ 新市庁舎での導入を決定



新市庁舎のイメージ